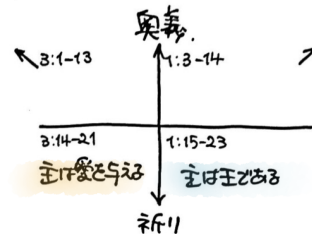




エペソ人への手紙 1-6章

エペソ人への手紙の祈り

エペソ 1: / 3: 2016.2.9



- ・ 栄光の父が。 1:17 3:16
- ・ 力 1:19,20 3:16,18,20
- ・ 知恵を与えて、目が見える。知るべきこと。—キリスト
- ・ 内なる人を強く。愛を知る。—教会が。
- ・ 支配、権威、権力、主権。—キリスト。から
- ・ 広さ、長さ、高さ、深さ。—からだ
- ・ 満ち満ちている。主は王である。王座につくかしら。
- ・ 主は愛と与える。御座から御愛と与える。

エペソ人への手紙を分析していますが、1章の祈りと3章の祈り。1章15節から23節までの祈りと、3章にも長いのがあります。3章14節から21節までの「こういうわけで、祈ります」というところがあります。

エペソ人への手紙の最後のところは、戦いに送り出すところです。ヨシュアにモーセが言ったように、「強くあれ、雄々しくあつて、戦ってください。」と言っているような終わりかた。「終わりに言います」と言っているところです。「武具を身につけて戦うように」という最後の(3章)18節からのところ。ここは、戦い。福音のために戦うのですけれど、福音の奥義を大胆に語ることが、戦いなのです。そのために祈り合う。この祈り合うというのは、戦う話なのです。

その「祈り合う」という祈りが、前半の出だしのところと、後半の3章からのところに長めの祈りがあります。その戦いということを忘れてはいけないということは、この中のキーワードでも言えると思います。「栄光の父が」がというところで始まっています(1:17)。「栄光の父が」がというところで始まっています(3:16)。エペソ人への手紙の全体が、「恵みの栄光がほめたたえられるため」「神の栄光がほめたたえられるため」という出だしで始まっていますが、その「栄光の父」が、この祈りの土台です。

その中で、(前半の)「力」「力」「力」。こちら(後半)も、「力」「力」「力」。ということで、「力」が強調されています。この力によって戦うということです。

(上と下で比べて)上の1章のほうの祈りは、知恵を与えてくださるように、目が見えるようになりますように、知ることが出来ますように、ということで、「キリストを知る」という知恵について言っています。後半の(下の)3章のほうの祈りは、内なる人を強くす

る、愛を知ることができるように、ということで、こちら(上)は、キリストを知って、キリストとからだが一つである。(下)そのからだは、キリストで満たされて、御霊が満ちあふれている。「満たす、満ちあふれる」という言い方も共通しています。

ここ(1:21)にリストがありますね。キリストは、支配、権威、権力、主権。3章(18)のほうにも、広さ、長さ、高さ、深さという共通点もあります。キリストはかしらとして、高く上げられているということと、そのキリストのからだである教会は、広く、長く、高く、深い。その愛が与えられているということが、このリストからもわかると思います。

主は(上の)王座について、王になっているというこの王の力の話と、(下)その王は、王座について家族である教会、天上と地上で家族と呼ばれるもの。家族にしてくれる。愛を満ちあふれさせて、神様の家族にしてくれる、その愛がこの後半で祈っているところということです。この祈りが、主は王であることと、主は愛を与えるという祈りで、この祈りの前段の1章3節から14節と、3章1節から13節のところに「奥義」という話が共通してありますので、その祈りの前の段落と一緒に、この祈りをもう少し見ていくことが大切だと思います。